



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.949 2014年10月6日

ARIBの動き

「第5世代モバイル推進フォーラム」の
設立総会及び設立記念式典の開催について

9月30日(火)、2020年以降に実現を目指す第5世代移動通信システムの調査研究を目的とする「第5世代モバイル推進フォーラム」(“The Fifth Generation Mobile Communications Promotion Forum”:略称5GMF)の設立総会及び設立記念式典が、明治記念館(港区元赤坂)において開催されました。

設立総会には、電気通信事業者・通信機器メーカー等42社、大学等研究機関、総務省等から合わせて125名の参加がありました。冒頭、来賓として総務省 総合通信基盤局 吉良裕臣局長からご挨拶がありました。

設立総会では、発起人代表の羽鳥光俊 東京大学名誉教授から設立趣意の説明があり、5GMFを設立する議案が採択されました。続いて、役員を選任が行われ、会長には京都大学の吉田進 特任教授・名誉教授、副会長には独立行政法人 情報通信研究機構の坂内正夫理事長、日本電信電話株式会社の篠原弘道副社長が就任されました。

また、本フォーラム配下に、企画委員会、技術委員会、アプリケーション委員会、ネットワーク委員会の設置が採択され、会長から、企画委員長に東京大学の森川博之教授、技術委員長に大阪大学の三瓶政一教授、アプリケーション委員長に株式会社インフォシティの岩浪剛太代表取締役、ネットワーク委員長に東京大学の中尾彰宏教授が指名されました。

その他、フォーラム規約の制定、平成26年度事業計画及び平成26年度収支予算の採択、会長からの顧問の委嘱等が行われました。

今後は、各委員会メンバーの募集が行われ、11月中旬以降に各委員会の第1回会合が開催される予定です。



総務省
総合通信基盤局長
吉良 裕臣 様



発起人代表
羽鳥 光俊 様



会長
吉田 進 様



副会長
坂内 正夫 様



副会長
篠原 弘道 様



第5世代モバイル推進フォーラム設立総会の様子

設立総会に続いて、設立記念式典が同じく明治記念館において、約 160 名の参加を得て開催されました。冒頭、羽鳥発起人代表から、5GMF 設立の報告がありました。

来賓として西銘総務副大臣からお祝いのご挨拶があり、続いて吉田会長からの挨拶がありました。懇談では、5GMF の今後について熱く語り合う姿が見られました。

最後には、第5世代に合わせて5本締めで閉会となりました。



来賓挨拶をされる西銘総務副大臣



第5世代モバイル推進フォーラム設立記念式典の様子

10月は「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年10月1日から10月31日までの間を「受信環境クリーン月間」と定め、放送電波の受信障害の防止に向けた活動を集中的に展開しています。会員の皆様も電波障害の防止になお一層のご協力をお願いします(詳細はARIBニュース No.946 2014年9月16日を参照ください)。

APT 無線グループ第17回会合 (AWG-17) の概要

1. 日程： 2014年9月23日～26日
2. 場所： Sheraton Macao, Cotai Central (中国 マカオ)
3. 出席者：

22か国から約210名が出席。日本代表団としては、総務省情報通信国際戦略局 近藤氏並びに国際周波数政策室 岩間補佐を団長に44名が出席。電波産業会からは、佐藤常務理事、石田担当部長、他2名が参加。
4. 会合の目的：

アジア・太平洋地域におけるIMT-Advanced等、無線システムの高度化及び普及促進に向けた検討・情報交換。
5. 主要概要：

APT 無線グループ (APT Wireless Group：略称 AWG) は、プレナリ配下に周波数、技術及びサービス・アプリケーションを扱う3つのワーキンググループ (WG) を設置し、各WGは課題毎にサブWG (SWG) 及びタスクグループ (TG) を設置して活動を行いました。なお、本会合では議長が欠席であったため、副議長である当会の佐藤孝平常務理事が、議長代行として議事を進めました。本会合での主な内容は以下のとおりです。

 - ・ 前回会合で発出された固定無線システムに関する質問票に対する回答が8か国から寄せられ、これをまとめたサーベイレポートが作成され、承認された。また、APT地域における固定無線技術に関するレポートの作成を開始した。
 - ・ JTG4-5-6-7においてWRC-15議題1.1 (IMTへの追加周波数の特定) の候補周波数帯として議論されている周波数帯に関する質問票が、前々回会合で作成され発出された。これに対する回答が8か国より寄せられ、本回答をまとめたサーベイレポートが作成され、承認された。
 - ・ SRDに関しては、我が国の提案に基づき275GHz以上の短距離無線通信システムに関する検討を開始することとした。
 - ・ 無線電力伝送に関するレポートの作業文書のアップデートが行われるとともに、無線電力伝送技術のサービスシナリオ、ユースケースに関するレポートを作成することとした。
 - ・ ITSに関しては、ロードセンサーネットワークに関するレポート作成に向けた作業等を実施した。
 - ・ 次回会合において、第5世代モバイルに関して検討を行っている団体を招き、5Gワークショップを開催することとした。

6. 次会期の議長・副議長の選出：

今会合で、AWG 議長・副議長全員が二期の任期を満了するため、最終のプレナリで選出が行われ、当会の佐藤常務理事が議長に、中国の Zhu Keer 女史並びにベトナムの Le Van Tuan 氏が副議長に選出されました。

7. 次回会合のスケジュール：

次回 AWG-18 会合は、2015 年 3 月に日本で開催される予定です。

第 93 回規格会議の結果

10月2日（木）に、第93回規格会議を東海大学校友会館（霞が関ビル）において開催しました。今回は標準規格の策定1件、改定5件、廃止3件、技術資料の改定3件、作業班の名称変更及び設置要綱の改正1件が、提案のとおり決議されました。

本規格会議において決議された議案の概要は以下のとおりです。



第 93 回規格会議の様子

第 93 回規格会議 標準規格及び技術資料の策定、改定及び廃止等の概要

規格番号	規格名等	概要
ARIB STD-T114 1.0 版	空港内デジタル移動通信システム TYPE2 標準規格	本件は、無線設備規則第 49 条の 15 に規定される 400MHz 帯のデジタル空港無線通信に使用する無線設備のうち、無線回線アクセスに TETRA (TErrestrial Trunked RAdio) 方式を用いるものの無線区間インタフェースに係わる標準規格を策定するものである。 本分野にはすでに「空港内デジタル移動通信システム標準規格 ARIB STD-T87」に基づくシステムが

規格番号	規格名等	概要
		<p>存在するが、ユーザからの強い要望により海外の空港で使用されている TETRA 方式を用いたシステムの標準化を行った。</p> <p>本標準規格には、移行期間も含め既存のシステムとの干渉についてのシミュレーション及び電界強度測定を含めた考察結果を、参考資料として添付している。</p> <p>なお、本標準規格は ETSI が策定している TETRA 規格を参照し ARIB 規格とするものである。</p> <p>ETSI: European Telecommunications Standards Institute</p>
ARIB STD-T63 Ver.10.50 及び ARIB TR-T12 Ver.10.50	IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report	<p>本標準規格及び技術資料は、IMT-2000 DS-CDMA 及び TDD-CDMA システムに関するものであり、第 92 回規格会議（2014 年 7 月開催）において 2014 年 3 月までに 3GPP が制定したリリース 4 からリリース 11（LTE-Advanced 仕様は含まない。）までの仕様及び技術資料をベースに Ver. 10.40 へ改定された。</p> <p>今回の改定は、2014 年 6 月までに 3GPP が制定したリリース 4 からリリース 11（LTE-Advanced 仕様は含まない。）までの仕様及び技術資料に対応するように改定するものである。</p>
ARIB STD-T64 Ver.6.80 及び ARIB TR-T13 Ver.6.80	IMT-2000 MC-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report	<p>本標準規格及び技術資料は、IMT-2000 MC-CDMA システムに関するものであり、第 92 回規格会議（2014 年 7 月開催）において 2014 年 3 月までに 3GPP2 が制定した仕様及び技術資料をベースに Ver.6.70 へ改定された。</p> <p>今回の改定は、2014 年 7 月までに 3GPP2 が制定した仕様及び技術資料に対応するように改定するものである。</p> <p>なお、技術資料 ARIB TR-T13 については、新規規格の追加や既存規格の改定はないが、ARIB STD-T64 のバージョンアップに合わせてバージョンを Ver.6.80 に改定するものである。</p>
ARIB STD-T66 3.7 版	第二世代小電力データ 通信システム／ワイヤ レス LAN システム 標準規格	<p>本標準規格は、電波法施行規則第 6 条第 4 項第 4 号に規定される小電力データ通信システムの無線局のうち、2400MHz 以上 2483.5MHz 以下の周波数の電波を使用する無線設備であって、主としてデータ伝送のために無線通信を行う（電気通信回線設備に接続するものを含む。）「第二世代小電力データ通信システムの無線局の無線設備」、及び「ワ</p>

規格番号	規格名等	概要
		<p>イヤレス LAN システムの設備」について規定したものである。</p> <p>ARIB 技術委員会 無線 LAN システム開発部会（以下「開発部会」という。）において、2.4GHz 帯無線 LAN システムにおけるスループット低下の要因を検討した結果、5CH 以上離れたチャンネルを使用することが望ましいことを確認した。この検討結果を無線 LAN 作業班において審議した。</p> <p>今回の改定は 2.4GHz 帯無線 LAN システムにおけるスループット低下を防ぐため、CH1/6/11 を使用することを推奨する旨を参考 7 として追加するものである。</p>
ARIB STD-T104 Ver.2.50	LTE-Advanced System ARIB STANDARD	<p>本標準規格は、いわゆる第 4 世代携帯電話システムである IMT-Advanced System に関する 2 つの標準規格の内の 1 つである LTE-Advanced System に関するものであり、第 92 回規格会議（2014 年 7 月開催）において 2014 年 3 月までに 3GPP が制定したリリース 10 からリリース 11 までの LTE-Advanced 仕様をベースに Ver.2.40 へ改定された。</p> <p>今回の改定は、2014 年 6 月までに 3GPP が制定したリリース 10 からリリース 11 までの LTE-Advanced 仕様に対応するように改定するものである。</p>
ARIB STD-T112 1.4 版	特定ラジオマイクの陸上 移動局の無線設備（TV ホ ワイトスペース帯、特定 ラジオマイク専用帯、 1.2GHz 帯）標準規格	<p>本標準規格は、無線設備規則第 49 条の 16 に規定される特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備及び無線設備規則第 49 条の 16 の 2 に規定されるデジタル特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備について規定したものである。</p> <p>今回の改定は、変調方式、占有周波数帯幅、使用可能チャンネル、地上デジタルテレビ放送の保護、免許の単位（参考 3）及び電波利用料（参考 4）について追記するものである。</p>
RCR STD-25 2.0 版 （廃止）	1,500MHz 帯 MCA 陸上 移動通信を行う無線局の 無線設備標準規格	<p>本標準規格は、無線設備規則第 49 条の 7 に規定される 1500MHz 帯の MCA 陸上移動通信に使用する無線設備（同条ただし書きで定めるものを除く。）のうち MCA 制御局、陸上移動局及び指令局の無線設備について規定したものである。</p> <p>本標準規格では、MCA システム機能である移動局間通信及び指令局・移動局間通信について規定している。</p> <p>無線設備規則の一部改正（平成 14 年 12 月 20 日総務省令第 124 号）により、1500MHz 帯 MCA 陸上移</p>

規格番号	規格名等	概要
		<p>動通信を行う無線局の無線設備に関する規定が同規則から削除されたが、経過措置として同規則附則において平成 21 年 5 月 31 日までの使用期限がついていた。</p> <p>既に使用期限を過ぎているため、本標準規格を廃止するものである。</p>
RCR STD-26 2.0 版 (廃止)	1,500MHz 帯 MCA 陸上移動通信を行う無線局の無線設備（PSTN接続機能を含む。）標準規格	<p>本標準規格は、無線設備規則第 49 条の 7 に規定される 1500MHz 帯の MCA 陸上移動通信に使用する無線設備（同条ただし書きで定めるものを除く。）のうち MCA システムの制御局、陸上移動局及び指令局の無線設備について規定したものである。制御局には一般加入電話網（PSTN）を接続する PSTN 接続付加装置を有している。</p> <p>本標準規格では、MCA システム機能である移動局間通信及び指令局・移動局間通信に加え、制御局において一般加入電話網（PSTN）を接続して行う一般加入電話機と移動局又は指令局との間の通信（PSTN 接続）について規定している。</p> <p>無線設備規則の一部改正（平成 14 年 12 月 20 日総務省令第 124 号）により、1500MHz 帯 MCA 陸上移動通信を行う無線局の無線設備に関する規定が同規則から削除されたが、経過措置として同規則附則において平成 21 年 5 月 31 日までの使用期限がついていた。</p> <p>既に使用期限を過ぎているため、本標準規格を廃止するものである。</p>
RCR STD-32 3.1 版 (廃止)	1.5GHz 帯デジタル方式 MCA システム標準規格	<p>本標準規格は、無線設備規則第 49 条の 7 の 2 に規定される 1.5GHz 帯のデジタル方式 MCA 陸上移動通信を行う通信システムの無線区間インタフェースについて規定したものである。</p> <p>無線設備規則の一部改正（平成 23 年 12 月 14 日総務省令第 162 号）により、1.5GHz 帯デジタル方式 MCA システムに関する規定が同規則から削除されたが、経過措置として同規則附則において平成 26 年 3 月 31 日までの使用期限がついていた。</p> <p>既に使用期限を過ぎているため、本標準規格を廃止するものである。</p>
ARIB TR-B33 2.2 版	VHF・High 帯に適用するセグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送運用規定	<p>本技術資料は、207.5MHz 以上 222MHz 以下の周波数の電波（VHF・High 帯）を使用する地上基幹放送局を用いて行う地上テレビジョン放送及びセグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送</p>

規格番号	規格名等	概要
	技術資料	(ISDB-Tmm 方式) の運用を規定するものである。 今回の改定は、新事業者参入に伴うメタデータの運用方法の変更、ARIB STD-B32 3.0 版に整合するための参照先の章タイトルの変更及び受信機の機能に関する留意事項の追記を行うものである。
—	第 32 作業班の名称の変更及び設置要綱の改正	本作業班は「1.5GHz 帯デジタル MCA システム標準規格 (RCR STD-32)」の維持改定等を行うために設立され、その後「800MHz 帯デジタル MCA システム標準規格 (ARIB STD-T85)」の維持改定等を行うことが追加されている。 今回、RCR STD-32 の廃止に伴って作業班の名称を「第 T85 作業班」に変更するとともに、設置要綱の改正を行うものである。

今週の ARIB 内会合 (10 月 6 日～10 月 10 日)

10 月 7 日 (火) : デジタル放送システム開発部会 デジタル受信機作業班

10 月 7 日 (火) : 無線 LAN システム開発部会 第 16 回会合

10 月 8 日 (水) : 「第 5 世代移動通信システム国際ワークショップ 2014」

(本ワークショップは、総務省の主催で、CEATEC JAPAN 2014 会場にて開催されます。)

10 月 10 日 (金) : 防災行政無線システム作業班 第 2 回会合

今週の国際会合 (10 月 6 日～10 月 10 日)

開催を予定している会合はありません。

ARIBからのお知らせ

CEATEC JAPAN 2014 での ARIB セミナーについて

CEATEC JAPAN 2014 の開催が近づいてまいりましたので、ARIB セミナーについて再掲いたします。

下記のように昨年と同様に展示会場内にて、新技術の標準化動向を紹介するセミナーを行います。

記

ARIB セミナーの開催

(1) 日時 : 10月9日 (木) 15:30～16:30

(2) 場所 : 展示ホール セミナー会場6

(3) テーマ : 「通信放送分野における新技術の標準化動向」

※ 聴講は CEATEC の Web サイトからの事前予約制で、サイト上では「本講演は定数に達したため、受付を終了いたしました。」となっておりますが、当日、席に余裕があれば予約なしでも聴講可能ですので、聴講をご希望される方は、開催時刻までにセミナー会場へお越し下さい。

外部情報(広告)コーナー

《 注目の ICT 技術者資格へチャレンジ 》 第 19 回 モバイルシステム技術検定

検定試験はモバイルシステム構築に必要なワイヤレスデータ通信、モバイル情報端末、アプリケーション、セキュリティ、コンテンツ、M2M など構成する要素技術の理解度を計ります。システムエンジニア、コンサルタント、営業SE などモバイルシステムで活躍を目指す方々には必須資格となります。

MCPC モバイルシステム検定は、既に 53,000 人以上の方が受験されています(2014 年 7 月末現在)。また、多くの企業からは「取得推進資格」として認定をいただき、業界標準資格として位置づけられています。

皆様の挑戦を期待しております。

【実施日時】 2014 年 11 月 8 日 (土) 9:50~11:30

【開催場所】 札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡、さいたま、金沢、高松

【受検料】 一般 15,100 円 (税込)、協力団体 12,900 円 (税込)

※ARIB 会員各社は、協力団体料金となります。

【申込期間】 2014 年 9 月 1 日 (月) ~10 月 10 日 (金)

◆お申込みは Web から！

http://www.mcpc-jp.org/kentei/kentei_msg/index.html

モバイルソリューションを推進する MCPC
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-12 長谷川グリーンビル2階
<http://www.mcpc-jp.org/>

検定・講習会のお問合せは
MCPC検定事務局 TEL.03-5401-1735
FAX.03-5401-1937
e-mail:msec@mcpc-jp.org

編集後記

10 月に入り、日ごとに秋の深まりが感じられるようになりました。秋と言えば、“○○の秋”とよく言われますが、今年は“スポーツの秋”でしょうか。仁川アジア競技大会が先日終了しましたが、オリンピックの競技にはないボウリングなどもありなかなか興味深かったです。

久しぶりにボウリング場に行ってみたくなりました。

(編集子：Oz)



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp